

日本の世界遺産めぐり

その五 古都京都（文化遺産）①



古都京都＜分布位置図＞
 1994年12月9日文化遺産登録

京都府京都市、宇治市、滋賀県大津市に点在する「古都京都の文化財」登録。平安時代から江戸時代までの建造物群は各時代を代表する建築様式、庭園様式、文化的背景を今に伝えていること、それらの建造物群は日本全国の建築様式、庭園様式の発展に大きな影響をおよぼしたことが評価され、文化遺産登録となった。登録地域の面積は

1056畝、それを保護する緩衝地帯3579畝に及ぶ。古都京都は延暦十三年（七九四年）、中国の都城を模範に、日本の首都・平安京として建設され、平安時代から江戸時代まで千年の長きにわたり繁栄してきた。

世界遺産に登録されている資産は、いずれも芸術的価値が高く、建造物38棟が国宝に、建造物160棟が重要文化財に、庭園8箇所が特別名勝に、庭園4箇所が名勝に指定されている。創建当時の建造物は、しばしば発生した大火や兵火のため、相当部分を焼失してしまっただが、再建をくり返し、現在も日本文化の象徴として守られている。時代の荒波にほんろう

されながらも、再建をくり返して保存され、外国からの侵略を受けなかったことから異文化による破壊がなく、第二次世界大戦でも空爆をまぬかれ、世界遺産への登録につながった。



上賀茂神社

1、賀茂別雷神社（かもわけいかづちじんじや）・・・上賀茂神社



下賀茂神社

2 賀茂御祖神社（かもみおやじんじや）・・・下賀茂神社
 京都府京都市（位置図参照）にある賀茂神社は、1、2の神社の総称。
 古代の賀茂氏の氏神を祀る神社で、古くは「賀茂大神」とも呼称した。両社の祭事である葵祭は特に有名である。また、この賀茂神社から勧請を受けた「加茂神社」「賀茂神社」「鴨神社」などといった神社が日本には三百社ある。 続く

世評・時評

富岡製糸場

富岡製糸場の正面線上に「明治五年」と刻み込まれた文字が見え、そこには歴史を思わせ風格が漂う。私は知らなかったが、若い人達は学校で習ったとかで「富岡製糸場」の事をほとんどの人がよく知っている。

群馬県のこんなに遠い所へ、二十歳代の亡父が単身赴任した。福岡県の師範学校で教員免許を得たばかりの父が、はるばる東京を経て群馬のはずれまで、たった一人でやって来たのだ。よほどの使命感に燃えてのこ

とに違いない。そこで出会った、この広大な施設・設備にすっかり感動し、骨を埋めようとして決心した。その強い意志が当時の写真に写った表情に表れている。熱心なクリスチャンでもあった彼は、大勢の女工たちの教育を担当し厳しい態度で接したと思われる。明治三十年代の若い父にとつて、ここは正に外国であった。十数名のフランス人が常駐し絹糸の製糸、輸出の指導に当たっていた。ワインを飲む彼らを見て、生き血を吸うと噂したという。操業停止までの一五年間、休まず活躍し続け、

今は創業当時のままの姿を残して保存されている。敷地面積五万三千七百三十八平方メートル（一万六千二百五十五坪）一日、十数回に分けてガイドツアーが催され、グループ毎に詳しい説明があった。映像コーナーでは現在の製糸場が紹介され、他にもフランス式操糸器の実演や、座繰りの体験などがあつた。

二 空の色は海の色 澄んだ青色一色の果てなく続く大空は凡てを包んで大らかにみんなに恵みを惜しみなく 沢山与えて呉れるのよ 昼間には雪かきと 見まがう美しき 白雲の舟を浮かべて 幸せ一杯運ぶ大空は 人の心を柔らかく 包んで優しき呉れる のよ

次号以降も順次名所寺を紹介する予定ですが、十七箇所及びみすので限定する可能性があります。

3、教王護国寺（きやうごくに）・・・東寺
 4、清水寺（しみずでら）
 5、醍醐寺（だいがじ）
 6、仁和寺（にんなじ）と続きます。

三 夜には星の耀きで 大空すべてを埋め尽くし 夢見る心の喜びと 温もりそっと届けるの 眠る夜空の月光は 生きる力を呉れるのよ

葵友の会 広報コーナー

1月度行事の結果
 成田山・犬吠埼・香取神社
 一泊温泉旅行
 16（木）、17日（金）
 成田山参拝とウナギ、太平洋を見下ろす露天風呂、地球が丸く見えた犬吠埼 太古を偲ぼせる香取神宮など、盛りだくさんですがゆつたりとした旅行が出来ました。
 カラオケ会
 24日（金）バンバンにて11名の参加。
 2度行事の予定
 麻雀大会
 19日（水）、ベイブにて開催。
 カラオケ会
 21日（金）バンバンにて開催。
 スカイツリー・亀戸天神まつり日帰り旅行
 25日（火）、350メートルの展望フロアから大東京を眺め、亀戸天神の300本の梅を堪能しましょう。

久下 正(士)

一昨年脳梗塞になって一年になりました。左側マヒになって非常に悔しい思いをしております。早く自転車、オートバイに乗るように頑張りたいと思います。



久慈 壮太(士)

趣味は絵を描くこと。水彩画で、静物画を描いています。庭の手入れ、椿、梅などの木を剪定します。草取りは大変です。



芥川 みさ子(月、金)

七十代からジムで水泳を習い始め、クロール、背泳ぎとやつと泳げるようになったところで体調が悪くなりました。早く復帰したいです。



私の昭和史(最終編) 島田 暎一

★最終編(前編) 青少年学徒出陣

昭和十八年、十一月三十日の午后、私たち入隊予定者は東京駅前広場に集合することになりました。二日前に近くの神社に武運長久の祈願に、在郷軍人と隣組の人たちに送られ、お詣りに行きました。

翌朝十二月一日、伊勢湾に面した三重海軍航空隊に入隊し、明日から飛行機搭乗員(パイロット)として厳しい基礎訓練が始まりました。そして三月には私たち甲飛十三

夢想 白木 多美

看護師、助産師と続けて資格を取っていた頃、「最終的には何になりたいの?」と看護学校の同期に訊かれました。「作家」と私(資格いららないじゃない!)と呆れられました。長年ひそかに芥川賞を狙っています。

美家の菩提寺に芥川龍之介先生の墓があるのので、父の墓参りの度に(ついでに)お参りしています。どうか芥川賞を獲らせてください、と墓に祈ります。この時点で間違っています。芥川賞創設者の菊池寛氏の墓参りをするほうが良いはず。先日も芥川氏の墓参り

期生は、霞ヶ浦の予科練のメッカ土浦航空隊に移動し、本格的訓練が開始されました。激しいカッター漕ぎ、操縦機、グライダー等の訓練を終え、搭乗員の急速な養成のため四ヶ月も早く卒業となり、その前に新兵器水中特攻(回天)水上特攻(零戦)への募集が極秘裡に行われ、希望者は早々どこかに転属して行つたのです。

私たちは飛行機操縦練習生(飛練生)として土浦から宮崎の富高航空基地(日向市)へ転属になりました。二日後、富高駅に着き列車から降りて外へ出ると、基地から迎えに来た眼光鋭い下士官

をしたところ、墓前にキユウリが3本ある!ピンとききました。「河童忌」とご存知の通り「河童忌」とは芥川龍之介の命日です。実は、太宰治の命日である「桜桃忌」のほうが名前はカッコいいな!と思つているのは置いといて、気になるのはこのキユウリ。今は冬。

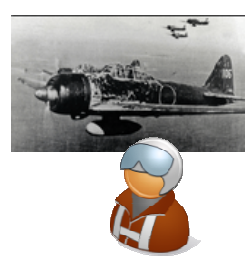
『河童忌』は7月ではないか。これはもしや、私と同じく芥川賞を狙う者の仕業か!? 愚かなり。いくら命日に「河童」が付いても芥川氏は人間。しかも好物は甘いもの。キユウリを供えた人間に勝つたつもりで、ハタと気づけば、まだ小説の一本も書いたことのない私。芥川賞最高齢受賞者

が、「お前たちよく聞け、飛行機に乗ったら死んだと思え、失敗は成功ではなく死だ」と気合をいれられ、飛行場の隊門まで衣納をかついで駆け足でした。やがて地上訓練から、離着陸の飛行(訓練)作業が始まり緊張の連続となりました。

二月月早く来た前期同期生では、事故で殉職した練習生もいたのです。この基地は戦闘機(0戦)の訓練基地でしたが四月から訓練航空隊になったのです。

そして中間練習機が終わり、次の編隊飛行から特殊飛行へ進んだ頃ガソリンの欠乏のためアルコール混合ガソリンでの訓練

が、「お前たちよく聞け、飛行機に乗ったら死んだと思え、失敗は成功ではなく死だ」と気合をいれられ、飛行場の隊門まで衣納をかついで駆け足でした。やがて地上訓練から、離着陸の飛行(訓練)作業が始まり緊張の連続となりました。



練が始まり、寒いとエンスト等の事故もあり、遂に三月、特攻機以外は飛行訓練も中止になったのです。それから間もなく米艦隊の接近で艦載機の空襲もあり、ある日多数のグラマンF6Fの来襲を受け、味方の0戦や隼が撃墜され遂に解隊となったのです。私たちは直ぐに次の岩国基地に移動しました。 続く



白血球 山村匡

私達は通常、健康の指針として血圧・コレステロール・血糖値・肝機能・貧血等に関心を払うもの、白血球にはさほど注目しないと思います。しかし、白血球が如何に細菌やウイルス等から体を守る重要な役割を司っているか、私は如実に体験しました。昨年八月十二日の朝、平常どおり葵で朝の体操が終り、サブ次

あおい俳壇・歌壇

年末の くし運試して 赤南天
鋼の おてんの品々 こまなごむ 富寿郎
青春われ 思いさまさま 去年今年(ごまごま) 生きている 証しとばかり 初詠
初夢は コアラ抱く亡妻(つま) 笑う顔 富士を背に 箱根駅伝 ドラマあり 大内田日出人
初空に 鳩の旋回 ゆつたりと 冬めくや 日差しを浴びて シクラメン 相田美代子
久々に 友と相見えて 過ぎし日の 貧しき日々を 笑みつつ語る
それぐに 趣味の自慢大きくて 今宵の宴は 同期の集い 麻生伊登子

自画像



ドライバー 松井昭人

来ず、このままでは感染に無防備なので専用の治療室に隔離されました。それまでの症状に加え、口唇ヘルペス・口内炎・腎盂炎・異型肺炎と一日中点滴につながれる一か月の闘病生活が続き、何度かもう私も最後かなと思ふ事がありました。



一か月の治療の後は寝たきりで動けず、今ようやく歩行器で歩くまでに回復しましたが、白血球の防御力、抵抗力、免疫力が無ければ人間は生きられないことを、身をもって感じた次第です。 先輩や職員さんの指導の下、利用者様に安全・安心して乗って頂けるように日々努力致します。